

西太平洋地域のデング Dengue in the Western Pacific

森田 公一

Kouichi MORITA

長崎大学熱帯医学研究所病原体解析部門分子構造解析分野

Department of Virology, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University

デングウイルスは蚊で媒介される急性ウイルス感染症であり現在、ほとんどの熱帯地域の国々において流行を繰り返しており、その対策は熱帯地域における保健衛生上の重要課題の1つである。世界保健機関（WHO）は世界人口の約半分にあたる25億人の人々が感染の危険がある地域に居住し毎年2000万人におよぶ感染者が発生しているの見積もっている。デングウイルスの主たる媒介蚊は熱帯シマカ（*Aedes aegypti*）であり、この蚊がヒトの生活の場（都会や集落）で増殖する習性があること、およびヒト-蚊-ヒトのサイクルでウイルスが増幅・媒介される事から（図1）、デングウイルス感染症は熱帯地域の人口密集地において猛威をふるっており患者数・流行地域ともに増加・拡大している。

デングウイルスはヒトに感染した場合、比較的穏やかに経過する発熱・発疹を主症状とするデング熱と重症で致死的な出血性疾患であるデング出血熱という2つの病型を示す。デング熱は古くから知られた疾患でありすでに19世紀にはアメリカ、アフリカ、アジア、太平洋諸島の熱帯地域の国々での流行が記載されている。一方のデング出血熱は1953年にフィリピンのマニラで初めて確認され、1954年にはタイ国のバンコクでも流行が確認された。以来、デング出血熱の流行地域はデング熱とともに継続的に拡大し、現在ではほとんどの熱帯アジアの国々、太平洋諸島国、中南米、カリブ海諸国で多数の患者をだしている。（図2）

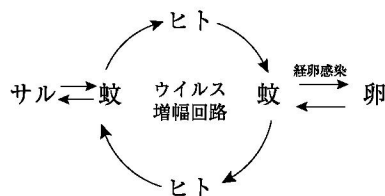


図1 デングウイルスの生活環

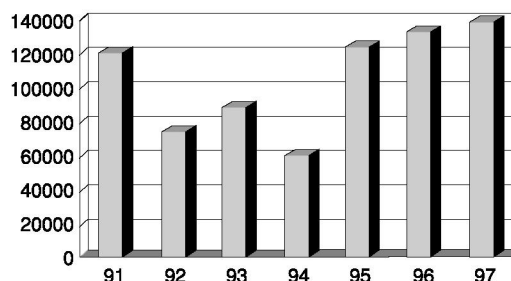


図2 WHOに報告された西太平洋地域のデング患者数 (1991-1997)

